

第63回津市総合教育会議議事録

日時：令和7年10月17日（金）

午後2時開会

場所：津市教育委員会庁舎4階 教育委員会室

出席者

津市長	前葉泰幸
津市教育委員会	教育長 森 昌彦
	委員 西口晶子
	委員 田村学
	委員 山口友美

教育総務部長　　定刻になりましたので、「第63回津市総合教育会議」を開催いたします。それでは、前葉市長から開会のご挨拶をお願いいたします。

前葉市長　　只今より、第63回津市総合教育会議を開催いたします。

教育総務部長　　それでは、本日の「1 協議・調整事項」のうち、まず「（1）総合教育会議懇談会を受けての今後の取組案について」に入りたいと思います。それでは、事務局からご説明させていただきます。

教育総務課長　　それでは、「総合教育会議懇談会を受けての今後の取組案について」、ご説明申し上げます。

お手元の資料1「令和7年度総合教育会議懇談会の結果について」をご覧ください。令和7年度は8月4日と5日に「令和7年度教育施策の取組について」をテーマとし、これまでの取組をどう展開させていか等について懇談会を開催しました。

津市小中学校長会、津市PTA連合会本部、津市立幼稚園長会及び三重県教職員組合津支部の代表者の皆さんからご意見等をいただいたものを、各団体ごとに整理させていただきましたので、その主な意見をご紹介させていただきます。

「3 懇談会での意見」の左から、津市小中学校長会からは、長寿命化改修工事によるエレベーターの設置、多言語化に対応するための通訳等の支援の継続、学校給食における物価高騰に対する支援等のご意見をいただきました。

次に、津市PTA連合会本部からは、授業や集会、また地域やスポーツ少年団等で活用されている学校体育館へのエアコンの設置、校内教育支援センターの設置及び人的配置、水泳授業の継続等のご意見をいただきました。

次に、津市立幼稚園長会からは、少人数の環境を活かしたきめ細やかな保育の実施、相談内容に応じて関係諸機関へつなげていくハブ役として保護者支援、架け橋プログラムの取組について、広く発信していきたい等のご意見をいただきました。

最後に、三重県教職員組合津支部からは、タブレット端末を活用した授業改善等の研修、教員支援員やスクール・サポート・スタッフの継続した適正配置、学校施設整備基金を活用した雨漏り対策の継続等のご意見をいただきました。

次に、お手元の資料2をご覧ください。

これらのご意見を集約させていただき、津市GIGAスクール構想の実現など、11のカテゴリ別に今後の取組案をまとめさせていただきました。

まず、左の列1段目の「津市GIGAスクール構想の実現」では、ICT機器の効果的な活用やICT環境のより一層の充実を図る必要がある中で、課題として、情報活用能力の育成に係るICT機器のより効果的な活用方法の研究や、教員の指導力のより一層の向上などがあります。

次に、左の列2段目の「教育環境の整備」では、今年度に積み増した学校施設整備基金により、学校施設特別推進事業をさらに推進していきます。また、課題として、体育館空調設備の整備に向けた具体的な取組を検討していく必要があります。

次に、左の列3段目の「子どもたちと向き合う時間の確保」では、本市独自の取組である教員支援員については、再任用職員の減少に伴う新たな配置方針の検討していく中で、

教育現場の負担軽減につながる支援策に見直していく必要があります。

また、教員業務支援員（スクール・サポート・スタッフ）については、配当時間の継続・拡大及び算定基準の再検討を県に対して要望していきます。

次に、左の列4段目の「外国につながる子どもの教育環境」では、外国人児童生徒通訳等巡回担当員や母語支援協力員の園や学校への派遣や、初期日本語教室「きずな」「移動きずな」及び就学前日本語教室「つむぎ」の充実を図っていくとともに、就学や進路選択に係る支援として、就学・進学ガイダンスなどにも引き続き取り組みます。

また、課題として、外国につながる子どもが在籍する学校の広域化や多言語化に対応するための母語支援協力員等のさらなる拡大などを図る必要があります。

次に、真ん中の列1段目の「幼児教育から小学校教育への連続した学び」では、すべての小学校区において津市架け橋プログラム実施のため、小学校区での語り合い充実のための支援や、架け橋サポーターや幼児教育アドバイザー等による訪問支援を継続していきます。

次に、真ん中の列2段目の「子どもが主体となる教育環境」では、子どもが主体的に学び合う授業へ変えていくため、教員の意識改革に向けて、指導主事が学校訪問をし、適切な支援を継続していきます。

また、特別支援教育支援員などの継続した人的支援を実施していく中で、課題として、支援員の人材確保のために勤務条件や職場環境等、改善の必要があります。

次に、真ん中の列3段目の「部活動の地域連携・地域展開」では、拠点型部活動の実施に向けた体制づくり等の取組や部活動を指導するための部活動指導員や外部指導者の確保をしていきます。また、地域の文化・スポーツ団体との連携をしていく中で、課題として、学校間等の移動手段の検討や、指導者的人材確保等をしていく必要があります。さらに、部活動の在り方及び地域展開に向けた方法について、引き続き検討していく必要があります。

次に、真ん中の列4段目の「学校における人材確保の課題」では、時給・日給単価の課題などにより近隣地域との格差が生じ、特に学校サポーターや学校運営相談員への人材確保が難しく、人材が津市以外へ流出していくことが懸念されています。

次に、右の列1段目の「地域とともにある学校づくり」では、学校運営協議会及び地域学校協働活動の充実に向け、その支援と地域コーディネーターの育成を継続して支援していきます。また、課題として、子どもが主体となる教育活動の充実や、地域コーディネーターの人材確保及び人材育成があります。

次に、右の列2段目の「より良い学校生活の充実」では、学校給食を安定的に供給するため、給食物価高騰に対する支援を検討していくとともに、課題として、国の学校給食無償化への動向を注視しつつ、公会計化の導入に向けた検討を進める必要があります。

また、放課後の児童の居場所の充実では、放課後児童クラブ運営補助金の一層の支援の充実や、施設の狭隘化に対する計画的な整備、運営に係る保護者などへの負担軽減に取り組んでいきます。

さらに水泳授業の継続では、児童の水泳指導の機会を確保し、水泳授業を継続するとともに、課題として、今後学校プール施設が使えなくなった学校が増加した場合、水泳施設や移動手段の確保などの対応について、検討していく必要があります。

懇談会のご意見以外での取組として、右の列3段目の「白山地域における小学校の統合」

では、令和11年度の開校をめざして、学校施設の整備、学校運営や通学対策に関するこの検討、地域・PTA活動との連携を進めていきます。

以上で説明を終わります。ご協議のほどよろしくお願ひします。

津市長 ありがとうございました。それではご意見を頂いてまいりますが、最初にお断りをさせていただきますと、白山の小学校の在り方については、別の今日議題を掲げましたので、そちらでご審議いただきますので、それ以外の10項目でいろいろお気づきのことなどをご発言いただいて、来年度の教育施策の企画立案に向けての議論をお願いしたいと思います。最初、私のほうでの印象ですが、8月に、例年どおり懇談会をさせていただいた結果、比較的私どもの独自の施策についてはですね、現場において一定の評価を頂けているという感じがいたしました。したがって、もうちょっとそれをさらに進めてほしいというようなご意見などが多かったと思います。したがって、6億円に積増しをした学校施設整備基金をうまく活用したり、あるいは架け橋をですね、さらに保幼小の架け橋プログラムとして、よりしっかりと展開したいというようなことなどですね、さらに我々としてしっかりと進めていかないといけないなというふうに思いました。もう1つはですね、国の政策に関連して、クラブ活動、中学校の部活の話と、それから給食の話がかなり動きが出てきていますので、それですね、私ども令和8年夏以降ですね、新しい拠点型に向けてということでもう広報したところなんですが、これは元々、中学校の部活については、子どもたちの数が減ってくる中で、どうやってうまく子どもたちがやりたい競技をですね、クラブができる環境を作っていくかということが課題になっていたことでありますので、国の動きにある意味、乗っかるようななかたちで、しっかりとやっていかないといけないなということを思っております。それから、給食については、これも元々、学校校長会計と俗に言っておりますが、学校でそれぞれ通帳を持ってやってきているというところが、かなり事務的にも負担が大きいとかですね、いろいろある中でですね、今回、無償化という議論が進むのであれば、それを機にしっかりと給食会計自体を学校現場の負担が少ないかたちにしていくということですね、これもある意味絶好のチャンスじゃないかなというふうに思いますので、これらについては、しっかりと、国がどういうふうなスピード感でやってくるかということはありますが、我々として大きな方向性は変わらないと思うので、その方向で取り組んでいくことが必要かなと、こういうふうに考えておるところでございます。それでは、どうぞ、ご意見などをお願ひします。

山口委員 先ほど市長もおっしゃられたように、前回の懇談会で、それぞれ現場で生徒たちの声を聞かせていただいて、よかったですという声を頂いたことは、安心したところではあります。それで、これを見ておりまして、今後の取組案ということで見ているんですが、まとめて言うと、学校で過ごす時間と同じぐらい、放課後の時間も大事であるのかなと思っていますので、「放課後の児童の居場所の充実」というところ、放課後児童クラブの狭隘化に対する計画的な整備というふうに言われていましたけども、その質の向上とか充実と、あと部活動も含めて、放課後、児童生徒がどのように過ごすのかということを、広く市内全域で捉えて、もう少しできることもあるんじゃないかなと。それの部分で考えるよりも広く考えて、勉強していくこと、あとPTAとも連携しながら進めていくことができるんじゃないかなと思っています。あともう1つ、「外国につながる子どもの教育

環境」というところで、やはり日本語の習得というのが、ものすごく重要でもありますので、初期日本語教室「きずな」とか、「移動きずな」、就学前日本語教室「つむぎ」とあるんですけれども、初期ということで、進捗の程度に合わせて支援していただいているんですけど、さらに、もっと進学のことも含めたり、日本で生活をしていくということも含めた、体系的な、高度な日本語力につながるようなこともやっていきたいなと考えております。

津市長 ありがとうございます。皆さんのご意見よろしいでしょうか。

西口委員 懇談会の資料をまとめていただいて、ハード面とソフト面を考えてきたときに、やっぱりハード面。体育館へのエアコンをどうしていくのかということが、今後考えないといけないと。今年のような猛暑が今後も続く可能性は考えられるので、そこについては考えていかないと。それから、ハード面としては、学校施設整備基金をさらに積増してもらいましたけれども、雨漏り、それからトイレ。トイレの詰まりというようなところは、やっぱり学校において、そこが悪くなってくると、一番に子どもの心に影響してきますので、そこには常に目を光らせとかないといけないということを思います。それから、ソフト面というか人的な面で、学校にはどれだけ人が入ってもらっても助かるというような経験もありますので、そこをどう整理していくのかっていうことが大きな課題かなと思っております。

今までもある特別支援教育支援員とか、それから校内教育支援センターへの人的配置とか、それから通訳とか、外国につながる子どもたちへの支援とか、巡回相談員とか、そういう部分については今までどおり、もしくはそれよりも手厚くというふうに考えていかなければならぬのと同時に、ここにも書いてある教員支援員、私が退職してから教育委員になるまでの2年間の間に市長独自に作っていただいた教員支援員というものと、教員業務支援員（スクール・サポート・スタッフ）とのつながりというか、その整理をしていかないといかなと思うんです。教員支援員というのは、学校にとったら、プロパーの方が来てくださって学校を一緒になって支えてくれる、この素敵な技量を持った方を、今後、教員業務支援員（スクール・サポート・スタッフ）の中で埋もれさせていっていいのかというのが私はもったいないなと思ってしまっていて、自分の中の持論としては、給食の公会計の話になりましたけれども、常に給食会計というのは、学校では給食担当と校長とごく一部の者がすごく必死になって、もう赤字を出さないように、さらには余らさないというのを、学校が集めているお金ですから、本当に神経を使って運用してもらっています。もし可能ならば、教員支援員が、今持っておられる力が全ての学校の給食会計へ使われていくといいなと。今、そこをうまくできないかなというのが自分の中では思っています。

津市長 そういうことなんですね。それでは次。

田村委員 私もほぼ同じような印象を持っていまして、ハード面とソフト面、特にハード面に関しては、「教育環境の整備」のところで基金を活用した雨漏り対策とか、非常に現場では喜んでいただいている。でもまだ全てではないという状況は伝えなければなと思います。それと、4団体中の3団体の方々がですね、体育館のエアコンに関しては、表現

は違いますけど、取り上げておられます。取り上げなかつたのは幼稚園の園長先生方ですから、ちょっと条件が違いますよね。体育館がそもそもないので。これは、裏返して見れば、普通教室とか、こういう言い方がいいのかどうか分かれませんけど、最低限のところがもう整つてきているので、1つ環境が整つてくれれば、別のところの課題が見えてくるつていう中で、今、現場では体育館というのが特に上がつてくるのかなと思いました。それと、見逃してはいけないのが、私もすごい印象を受けたんですけど、幼稚園で5歳児の部屋にはエアコンがない。遊戯室に付いているからそれ使つとけばいいやん。ところが、幼児教育においては、これはこれでいろんな問題があるんだということを、園長先生方がおっしゃつてみえたので、そういうものなのかと思って、今日、富田先生いらっしゃつたら、それが専門的にはですね、これは問題だよつていう話が出てくるのか分かれませんけども、それが非常に印象に残つていますし、このままではいけないのではないかというふうに思つています。ソフト面では西口先生が言った人材の問題、いろんな分野があると思つますけど、教員支援員にしてもそうですし、特別支援教育支援員にてもそうですけども、しっかり人材を確保していただいてありがとうっていうお礼の言葉とともに、少なくとも現状維持、できれば更なる拡充をということを訴えておられたような気がしますので、そのへんは何らか答えていかないといけないのかなという気がしております。

津市長 ありがとうございました。参考までにということで、事務局の検討状況というか、参考意見を聞いておきたいと思いますが、3つぐらいありますので、順番にお答えください。1つは施設ですね。体育館のエアコンとかを中心に、その他日常的なトイレの在り方ですね。そのあたり、どういうふうに受け止めていて、どういうふうな、今後、充実を図ろうとしているのか。それから5歳児の幼稚園の教室のエアコン、これ施設担当。それから、教員のサポート体制としてのですね、人材の話ですね。様々ありますが、特に西口委員からも出ました給食会計との関係ですね、実際に教員支援員というか、学校の事務負担というかのが、どれくらいあるんだろうかって、給食のですね、仮に公会計化していくとなれば、どんな感じになるんだろうかということまでですね、参考までに聞かせてもらいたい。3番目は山口委員がおっしゃつた日本語教育のことですね。これはあまり総合教育会議で、公式なコメントを貰つたことがないような気がするのですが、特にアドバンストコースみたいな、そのへんはどうなんだろうかっていうようなことまでですね、どうぞ、事務局お答えください。

教育施設課長 まず体育館のエアコンの件ですけれども、現在、早期実施に向けまして、空調方式の選定とか、発注方式の検討を進めていまして、現地調査を踏まえて、事業精査をしているところでございます。具体的には、学校を建てたときには、キュービクルって、元々電気容量があるんですけども、エアコンを付ける想定がない所に、普通教室とか、特別教室とか、付けてきましたので、その容量がまず足りるか足りないかとかですね。足りなければ、ここが大きな問題になりますので、別の方法でできないかとかいう検討をしたり、あと、設置スケジュールとかを検討して、あともう1つ、方式の中に、工事でやるのか、リースでやるのかとかも検討して、リース業者だと何者いるのかという調査まで含めて、できるだけ早い時期に予算化していきたいというふうに考えております。

津市長 幼稚園はどうしますか。幼稚園担当、何かありますか。

幼児教育担当副参事 公立幼稚園については、園児数減少に伴いまして、学級数も減少してきておりますことから、エアコン設置の保育室を使用できる園が増えてきておる現状もございます。遊戯室を使用しております園につきましても、工夫して保育をする中で、異年齢の交流もより深まってきたという一面もございまして、園長会にもう一度確認をさせていただいたんですけども、優先順位もあると思いますので、今、至急にといったところではございませんが、また様子を見てということで、今すぐにということではありませんのでということです。

津市長 人材関係。

教育総務課長 まず教員支援員でございますけども、平成30年度からですね、教員支援員を開始いたしまして、時を同じくして教員業務支援員、スクール・サポート・スタッフも配置をされたというようななかたちでやっている中で、今回ですね、学校現場の皆さんに、改めてですね、今の状況というのを共有させていただいた中で、出てきた大きな意見といったしましては、国の教員業務支援員、スクール・サポート・スタッフのようにですね、いろんな仕事を支援してくれる人的なスタッフというのをさらに拡大してほしいというようなご意見と、それから、教員の方々が少し苦手されておるようなお金を使うような業務、代表的なものが学校給食会計でございますけども、そういうような業務をですね、専門でやっていただけるような人がほしいというようなご意見が出ております。また市長が言われましたように、学校給食の無償化というのもですね、国で議論をされておる中でですね、学校現場の皆さんですね、効果的にですね、負担軽減を感じていただけるようなかたちですね、支援のかたちを今検討しておるところでございますので、今後またそちらのほうをご報告させていただければと考えております。

津市長 はい。日本語教育。

人権教育課長 外国につながる子どもたちの日本語教育のことに関わって、今、言っていただきました。現在ですね、今年度の5月1日調査で50校の学校に710人の日本語指導が必要な外国につながる子どもたちが在籍している中で、先ほどの進学という話なんですが、初期の日本語指導を終えて、そして学校の取組をした上で、高校進学率については、十数年前は約50%から60%の子どもたちが高校に進学していたんですが、現在は90%を超える外国につながる子どもたちが高校進学を果たしています。それでも、まだ100%にはなってないのが事実です。そんな中で、今課題として、ここ数年課題で取り組んでいるのが、高等学校へ行ってからの中退学率の多さなんですね。日本人の子どもたちに比べて、外国につながる子どもたちが、中退学をしてしまうかもしれない。そういう意味では、高校へ進学した後も学び続ける力をいかに保障していくかということが、義務教育段階でどこまでできるかということ、その中で、義務教育段階の授業の中で、どのように保障していくかということを課題として捉えて、昨年度末に愛知教育大学との連携協定を結ばせていただいて、愛知教育大学が学生をですね、近隣の小学校、中学校に派遣

をして、外国につながる子どもたちの日本語の力を見る、学びを支援してみえるんです。そのような取組を学びながら、三重大学と連携してですね、取組を現在模索しているというか、検討しているところなんです。またそのあたり具体的になってきたときに、取組を進めていきたいなということを思っています。以上です。

津市長 ありがとうございます。ただいままで、参考までに事務局の検討状況を聞きましたが、それぞれご発言なされた方、何かもう一言どうですか。

はい、田村委員。

田村委員 今すぐにということではないので、いいのかなというのが素直に聞いたときの私の印象です。5歳児の園児にとっては1回限りですので。ずっとそれが、今すぐじゃなくてもと言っている間に在園中の子どもはいなくなっていますし、本当にそれでいいのかなって。後で聞き取つたらそういうことでしたということであれば、なぜ懇談会でああいう発言があったのかと。現場では課題に思っているから出てきた話なのに後回しにしていいんですというぐらいのことを言われると、ちょっと首をかしげてしまいました。

津市長 はい、どうですか、事務局。

教育長 前回総合教育会議懇談会の中で、市長からも前向きな温かいお言葉を頂きましたので、園長もいろいろ言えたんだろうなというふうには思います。正直に言いますと、普段の中で、そういう議論というのは正直なかったです。これまでも議論してきたこともございますので、なかったです。それからもう1つ言うと、私ども、幼稚園訪問をさせていただいて、各園の状況とか、夏場の状況を見させていただいた上で、例えば、南立誠幼稚園であったりとか、そういったところについても、一緒に、混合で幼児教育をするとか、いろんな工夫をする中で、人数も本当に少ないですでの、例えば、何十人もいる状況であれば、エアコンということも出てくると思うんですけども、そういう状況ではございませんので、ここはしっかり様子を見てですね、また、当然、必要であればということもあるかと思うんですけども、今の段階ではさっき言いましたけども、新たにということまでは考えていないです。

津市長 これまでも休園になってきた園があるでしょ？そこに付いていたエアコンはどうしているんですか。

教育長 移しています。

津市長 どこへ？

教育施設課長 今年、高茶屋幼稚園が閉園になりました、南立誠の1階の4歳児の所に付けています。

津市長 そこらへんは柔軟に、5歳はもう絶対に付けないということではなしに、人数

の多い所からなるべく付けてあげればいいですよね。

田村委員 よろしいですか。在園児数の状況とかも、定期的に資料提供をいただいているので、確かに、年齢ごとにクラスを分けてという状況でもない園が非常に多いというのもあると思いますから、全部に一律に、3歳、4歳、5歳の部屋に、それぞれの部屋に全部付けなければならないとか、そんなことは私も思っていませんので、園児数であったり、現場の状況に合わせて必要があれば、そこはなるべく早く対応していただいたほうがというテーマで受け止めていただければよろしいと思います。

津市長 ほかいかがですか。西口委員。

西口委員 外国人の高校中退率が多いということで、私たち津市の教育委員会として、小学校、中学校を預かる組織としてですね、小学校、中学校段階で、中退につながらないようなしっかりとした学力をつけていくために、もっと考えていかなければいけないというふうに改めて思いました。これから人口減少の中で、外国人の方に頼っていかなければいけないことというのが出てくるだろうというときに、例えば、私の地域もすごく増えてきて、どうしていくのかというのは、大事に見ていかなければいけないようになると思います。

津市長 現場の感覚として、最初の山口委員の話に戻るんだけれども、もうちょっと日本語が、さらに学んでいれば、もう少し高校なんかに行ったときにいいんだけどって、そのへんどうですか、小中の現場の外国につながる子どもたちを見て。鈴木課長、どうですか？

人権教育課長 高等学校へ行きますと、日本語で行われる一斉授業の中で学んでいくということを、小中学校のような手厚い支援がないという中で、自分で学び続けていく力を付けていかなければいけないというので、ただ、小学校の全員が1年生で転入してきたり別ですけど、中学校3年生の夏に転入してくる子どもとか、その時期もばらばらですので一概には、一くくりには言えませんが、ただ、義務教育段階で、日本語での授業の中で学び続ける力をいかに保障していくかということを視野に入れながら、小中学校での取組を作っていくなければいけないっていうのは、いろんな場面で発信しながら、学校の現場と課題を共有して取組を進めてはいます。

津市長 はい、山口委員。

山口委員 先日、保護者の方を招いて説明会を開いていただきましたよね。あれがものすごく大事だと思っていて、学校教育現場の支援だけじゃなくて。だから、両方小まめに繰り返しながら、保護者の方へのサポートをしていくことがまず土台にはあると思うんですね。進学を支えていくこともあると思うんですけど、高校に入るときに必要なのは、やっぱりキャリア教育だと思うんですよ。何のために高校に行くのか。高校に行ったことによって、その後、自分の人生がどうなっていくのかっていうことをイメージができないと簡単に退学をされると思うんです。退学してもいろいろな手法で学び続ける方法は

あるんです。そこがとても大事なことかなと思いますので、そういうことを理解するためにも日本語が必要で、個別対応ということだと思うんですね。全員に対して個別対応ということで今やられているので、個別最適な学びということでやられていく中で、特別なことではないと思うんですけど、すごく習熟度に違いがある中で、もっと先を学び続けるための手法みたいな、テキストみたいなものとかを与えるとか、これでもう十分だよっていうふうに思ってしまうと駄目だと思うんですね。漢字1つ取っても、ものすごくレベルが違っていて、程度もあると思うんですね。そういう意味では、もう少し先を見据えながら、習熟度が高い生徒にはたくさんのものをちゃんと与えていくとかっていうような、そこが個別最適な学びなのかなとはつくづく思っています。

津市長 はい、ありがとうございます。ほかにいかがですか。

それでは、ここで一旦切らしていただいて、また来年度の施策に向けては次回等さらに深めてまいりたいと思いますのでよろしくお願ひをいたします。それでは、2番になります。「白山地域の小学校の在り方について」を議題といたします。事務局からのご説明をよろしくお願ひします。

学校教育課長 それでは、白山地域小学校の在り方について、これまでの経過と今後の予定及び主な検討事項をご説明申し上げます。

本市では、白山地域に津市立家城小学校、津市立川口小学校、津市立大三小学校、津市立倭小学校及び津市立ハツ山小学校の合計5校を設置していますが、いずれの小学校においても児童数が減少しており、今後も令和13年度までの6年間でさらに約90人減少する見込みです。

恐れ入りますが、資料の1ページをご覧ください。

このような中、令和6年2月14日に白山地域の教育関係者や自治会関係者等で構成される「白山の教育を考える会」から本市教育長に対し、今後は教育委員会が中心となり、できるだけ早急に白山地域の小学校の将来の姿を決定し、統合も視野に入れた対応を講じてほしい旨の要望書が提出されました。

このことを踏まえ、教育委員会事務局では、白山地域の子どもたちにとってより良い教育環境となるよう検討を行うため、同年4月15日に、白山地域の自治会代表者、小中学校・こども園保護者代表者、地域の有識者等で構成する白山地域小学校の在り方検討委員会を設置し、白山地域の小学校の統合も視野に入れた検討を進めてまいりました。

検討委員会は、これまでに7回開催しておりますが、同年10月7日に開催しました第2回検討委員会において、児童数の減少が子どもたちに与える影響を踏まえ、白山地域の小学校について、統合に向けた検討を進めていくことが確認されました。

その後の検討委員会において、統合後の小学校の場所については、安全性を最優先にハザードマップを一つの指標として、既存の小学校の場所から選定することとして協議を重ね、令和7年6月20日に開催しました第6回検討委員会において、現在の津市立大三小学校の場所を候補地とし、あわせて、当該小学校の校舎等を活用し、大規模改造により整備する方向性が確認されました。

そのことを受けまして、同年7月21日に、白山地域の保護者や地域住民を対象に白山地域小学校の今後の在り方に係る住民説明会を開催し、検討経過、候補地案及び整備方法

案を提示しましたところ、小学校の場所の選定や通学対策等に関する意見が寄せられましたが、大きな反対はありませんでした。

同年8月1日に開催しました第7回検討委員会において、当該住民説明会で頂いたご意見等を踏まえ、白山地域の小学校を統合し、統合後の小学校の場所を現在の津市立大三小学校の場所とすること、また、当該小学校の校舎等を活用し、大規模改修により整備することとし、最短で令和11年度の開校をめざすことが確認されました。

検討委員会における確認内容に基づき、今後、令和11年度の開校をめざして、準備を進めてまいります。

なお、工事期間中2年間の大三小学校の在り方につきまして、敷地内に仮設校舎を設置しての学校運営、もしくは近隣の学校の空き教室等を間借りしての学校運営等、事務局においても検討してまいりましたが、近隣の学校での間借りを想定した場合、教室等が不足してしまうことから、大三小学校敷地内への仮設校舎の設置を行い、学校運営を行うことといたしました。

恐れ入りますが、資料の2ページをご覧ください。今後の予定及び主な検討事項についてでございます。事務局といたしましては、学校施設の整備に関する事や通学対策に関する事、学校運営に関する事等、検討事項につきまして、必要に応じて地域住民や保護者、学校関係者の方々の協力のもと作業部会も設置して協議検討を行い、白山地域の子どもたちのより良い学校づくりに向けて詳細を決定し、準備を進めてまいります。

説明は以上となります。

津市長　　はい、ありがとうございました。それではご質問、ご意見など、よろしくお願ひをいたします。施設の担当から、大三小学校の大規模改修、どういう規模というか、今何年築の建物で、どういう内容になってくるのかというのを、ちょっとざっくり話してください。

教育施設課長　　大三小学校は昭和57年築でございまして、耐震性能は旧の設計ではなくて、新耐震でやっていますので、現状は問題ございませんというのを書類で確認しております。今、大規模改修と言いましたのは、イメージが分かりにくいかも分かりませんけども、改修には間違いないんですけども、最近で言いますと、西が丘小学校とか、新町小学校みたいにほぼ全面スケルトン状態っていうかですね、壁とかも、構造体はもちろん残すんですけども、柱、梁は残すんですけども、取ってしまって、全取っ替えというようなかたちになっています。サッシ等ももちろん替えるということになっています。また後々協議をさせてもらうんですけども、当然、給食室の改修もございまして、このへんもやり替えさせてもらうのと、あとエレベーター、現在は付いてないんですけども、付けてさせてもらうというのと、あと地域のご意見が多かったのは、木質化をしてほしいという内容も、今、まだ設計段階で、どこまでやれるかというのがあるんですけども、今、想定しておるのは、特別支援教室とか、廊下とかに、腰壁に木質化をしていこうかなというような考えであります。

津市長　　水回りとか排水とか、いわゆるトイレとかそのあたりも。

教育施設課長 トイレも、窓もやり替えの予定で考えております。

津市長 だからざっくり言えば、今やっている長寿命化みたいな話とは違って、その前にずっとやってきた大規模改修、一棟3億円ぐらいかけて大体やってきた、そういうレベルの工事ということになりますね。

工期は？

教育施設課長 工期は、令和9年、10年をかけて。

津市長 丸2年。

教育施設課長 はい。丸2年を考えています。

津市長 そういう大規模な工事になりますので。一志西小が、高岡でみんなが揃ったときも、そういう大規模な改修がありました。そういう感じになるのかなと思いますね。

はい、ご意見どうぞ。

山口委員 学校運営で、今後、学校名とか校歌とか検討されるということなんんですけど、在り方検討委員会が継続して存続しながら進めいかれるのですか。

学校教育課長 今のところですね、検討委員会というのが、いろんな立場のいろんな地域の方とかが集まっていますので、そこを中心にしながらですね、それぞれ必要によって、作業部会に分かれながら進めていき、また検討委員会へ戻して、確認するというふうななかたちで考えております。

津市長 はい、西口委員。

西口委員 令和11年に開校ということで8年、9年、10年とあるんですけども、令和8年度に何をするかというあたりは。

学校教育課長 施設については、また後で教育施設課長から申すと思います。全体につきましては、この後ですね、例えば、通学対策のことであったり、学校運営のことであったりと、それぞれ様々な課題がございますので、まだそのあたりをきっちり固めている状況ではなくて、今それに向けて検討しているところではございます。その課題によっては令和8年度から動く部会もございますし、少し待ってからずらして令和9年度からというふうななかたちでですね、開校に向けての課題別にいろいろ取り組んではいきたいというふうには全体としては思っております。

津市長 それでは、施設のほう。

教育施設課長 先ほど令和9年、10年で、2か年かけて工事をさせてもらうというこ

との予定でございますけども、その前の令和8年度ということになりますと、設計をやらせてもらうこととなっています。それと、令和9年、10年に工事をするということに関わりまして、学校の仮設校舎を建てるというところがあつて、引っ越しもしてもらうというようなかたちになってございます。

津市長 そのあたりも含めて、予算をですね、これから立てて、議会の議決を取ってやっていくということになりますので、今日のところはまだそういう計画を教育委員会としての持っているということで受け止めさせてもらいます。

ほかいかがですか。よろしいですか。

教育長 ちょっと私から。

津市長 はい。では、教育長。

教育長 今後の予定及び主な検討事項の中に特には書いてはございませんが、ちょっと頭に置いておきたいのは、学校運営でいろいろなことを考えていくわけですけれども、子どもたちの発想というか、子どもたちの考えをいろんなところに入れていくって思います。校歌もそうですし。特に今いる入れない子どもたちというのが当然出てきます。大三小で、仮校舎で暮らして、そのまま新校舎に入れずに卒業します。そして、白山中に行くという子どもたちがいますので、その子たちは仮校舎で2年間あるいは1年間を暮らした上で、入れずに出てしまうことがありますので、特にその子たちのいろんな思いとかが、その新しい学校につながっていけるといいなというふうなことは思いますし、あと、この前の地域の懇談会を開かしてもらったときに言っていただいた、おおむね賛成はいただいたんですけども、地域の方にはいろんな思いで、大三以外の地域の方の思いとか、そういったことも十分考えた上で、いろんなことを進めさせていただきたいなというふうに思います。

津市長 はい。田村委員。

田村委員 前に、幼稚園の閉園のときに、今日いらっしゃらない富田先生がおっしゃつてみえたことをふつと思い出したんですけど、何らかの形で、その幼稚園があったという歴史というか、そういうものを残しておかないと散逸させてしまってはというのがあって、同じように、この5校についても言えることかなと。跡地の利活用ということは掲げていただいてありますけども、それぞれの地域の方に思いのある各小学校というものの、その歴史というか何か、それをどうやって残して、新しい小学校に引き継いでいくかっていうのを同時に考える必要があるんじゃないかなっていうのを思いましたのでご配慮いただけたらなと。

教育長 閉校記念行事とかするんですか。

学校教育課長 予定では令和10年度をもってですね、現在の学校は一旦廃止させてい

ただくということでございますので、この後、また各学校のほうでですね、閉校記念行事等もですね、それぞれの思いがあり、それぞれのやり方があると思うんですが、そのあたりもしっかりと相談して、させていただきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

田村委員　　去年、八ツ山小学校の授業の見学に行って、その内容とは全然関係ないんですけども、通していただいた会議室に、歴代PTAの会長の写真がずらっと並んでいたんですよね。知った顔も何人かいましたけど。地域にとってはこういうことなんやなっていう。校長先生じゃないですよ。歴代PTAの会長の写真がずっと飾ってあったんですよ。やっぱりそういう思いがあるんやなっていうのがありましたので、ちょっとないがしろにしないほうがいいのかなというふうに思いましたね。

津市長　　はい。ほかいかがですか。よろしいですか。それでは以上で、白山地域小学校の在り方、一旦ここで締めますが、これまた来年度の予算に向けての話があると思いますので、しっかりと取組をしていただきたいというふうに思います。

その他何かございますか。よろしいですか。それでは事務局、よろしくお願ひします。

教育総務部長　　ありがとうございました。それでは、これをもちまして、第63回津市総合教育会議を閉会いたします。本日はどうもありがとうございました。